

# 道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会  
事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2  
北海道開拓記念館内  
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

## 平成11年度第38回北海道博物館大会 (江別大会) 終える

平成11年度第38回北海道博物館大会(江別大会)は、7月1・2日の両日、150名の参加のもとに江別市で開催された。

大会1日目は、江別市民会館を会場に、午前10時より開会式、ついで総会に移り、平成10年度事業報告、同会計収支決算報告等満場一致で承認され、さらに、平成11年度事業計画、会計収支予算案も原案どおり可決された。また、平成12年度大会開催地は、端野町に決定された。

その後、平成11年度道博協表彰式に移り、熊谷正吉氏(月形町)が受賞の栄を受けられた。小休止の後、日本博物館協会専務理事五十嵐耕一氏による特別報告「行政改革と博物館」をもって、午

前の部を終えた。午後は、北海道女子大学短期大学部水野信太郎氏による特別講演「博物館とまちづくりー地域産業・文化・情報発信ー」があり、続いて、本大会テーマ『地域産業と博物館』のシンポジウムが行われた。江別市教育委員会生涯学習担当参事高橋正勝氏の司会のもとに、標津サーモン科学館主任学芸員小宮山英重氏、黒松内町ブナセンター学芸員高橋與世氏、江別市セラミックアートセンター事業推進係長園部真幸氏、サッポロビール博物館館長今堀忠国氏の4つの報告、さらにこれをもとに意見交換、討論が行われた。

2日目は、午前9時30分から、市内施設等見学として、江別市郷土資料館、町村牧場、江別市セラミックアートセンター、江別市ガラス工芸館、江別市屯田資料館を見学し、2日間にわたる全日程を終了した。

## 北海道博物館協会役員改選される

本年度は協会役員の改選期にあたり、総会において下記の諸氏が選出されました。

会長 吉田和夫(北海道開拓記念館館長)、副会長 河村猛将(北海道立近代美術館副館長)、佐藤一夫(苫小牧市博物館館長)、長尾章郎(札幌市円山動物園園長)、村田博(帯広百年記念館館長)、理事 小野塚正衛(博物館網走監獄館長)、黒崎康雄(浦河町立郷土館協議会会長)、小西弘(士別市立博物館館長)、佐藤明夫(網走市立郷土資料館館長)、七田龍夫(釧路市立博物館館長)、菅原繁昭(市立函館博物館館長)、杉浦重信(学芸員部会会長 富良野市郷土館)、津村孝(江差町郷土資料館館長)、福士廣志(学芸員部会副会長 留萌市海のふるさと館)、田中良吉(滝川市

美術自然史館館長)、鶴丸俊明(札幌学院大学助教授)、中川元(斜里町立知床博物館館長)、三野紀雄(北海道開拓記念館学芸部長)、矢野義和(札幌市青少年科学館館長)、矢吹俊男(学芸員部会副会長 倶知安町教育委員会美術・郷土資料館建設準備室)、山丸和幸(アイヌ民族博物館館長)、山脇修平(門別町図書館郷土資料館館長)、鷲足將成(小樽市博物館館長)、監事 大島隆(北海道開拓の村専務理事)、鈴木絃一(旭川市博物館館長)。

なお、9月30日、留萌市で開催された学芸職員部会総会において、会長福士廣志、副会長矢吹俊男、同川辺百樹(上土幌町ひがし大雪博物館)の諸氏となり、三氏が部会選出の協会理事となりました。

## 第38回北海道博物館大会（江別市） に参加して

今年市職員として採用になったばかりで、博物館大会に参加するのも初めてなら学芸員としての仕事をするのも初めて、といった状況の中での今回の参加は、非常に興味深く、またおもしろい経験でした。

大会は、7月1・2日の2日間に渡って江別市で開催されました。「地域産業と博物館」という大会テーマのもと、1日目は総会のほか、「博物館と街づくり」というテーマで特別講演やシンポジウムが行われました。2日目の施設見学では、江別市郷土資料館、町村農場、江別市セラミックアートセンター、江別市ガラス工芸館、江別市屯田資料館を見学しました。

### ■まちと博物館の「いい関係」とは

地域の独自性をうまく博物館づくりに取り入れることで、まちと博物館双方の発展を同時に促し、まちはよりその「まち」らしく、博物館もよりその「博物館」らしくなっていく。大都市のまねをするのではなく、「オンリー・ワン」を目指すべきだという特別講演での言葉が、とても印象的でした。

シンポジウムのテーマは「地域産業と博物館」だったのですが、地域産業を博物館の展示などに取り入れて紹介するということは、まちづくりに博物館が関わっていく第一歩だと思います。

博物館といえば、暗くて、古い何やら得体の知れないものが並んでいるあやしげなところ、などというイメージは今も持たれていないでしょうが、それでも、大きな総合博物館にはいったい何が展示されているのか想像もつかなくて、利用するにも二の足を踏んでしまう、という人はいるのではないのでしょうか。私はもともと博物館などの施設が好きだったのでそんなことはなかったのですが、友人の中には「古いものなんて見て、おもしろい？」という人もいます。本当は（皆さんもご承知のとおり）ただ単に古いものを並べているというだけではないのですが…。

最近、そのような総合博物館ではなく、地域産業や地域の歴史にテーマをしばった新設館が非常に増えてきているような気がします。今ならそれぞれの市町村に、たいていひとつはあるのではないのでしょうか。「ナンバー・ワン」の総合博物

館ではなく、「オンリー・ワン」のユニークな館を目指す。そのような動きからも、それだけ地域に根ざした、身近な博物館が望まれているということがうかがえます。

標津サーモン科学館は、「観光客の誘致と地域住民への社会教育の場の提供」を目的として設立されました。シンポジウムでは、地域住民との連携のもと、サケやそれを取り巻く環境に関わる情報の発信と、サケと人とを結びつける様々な事業展開という館の目標について、現状と問題点が報告されました。

標津の事例のように、地域と地域産業の問題点を解決するために、博物館が仲立ちとなって情報や方策を提供することは、これからの「地域の博物館」に期待される新しい役割の一つだといえるでしょう。たとえば人と自然、あるいは人と産業、自然保護と経済発展などが対立しあったとき、博物館が第三者として解決策を提示することができたら、こんなにすばらしいことはありません。

### ■江別市セラミックアートセンター

私は大会も初めてでしたが、江別市を訪れたのもこれが初めてでした。すぐ隣が札幌市という立地条件の中で、「オンリー・ワンの江別らしさ」を追求する姿勢が、江別の魅力なのだろうと思います。

2日目の施設見学で、江別市内の様々な施設を時には解説つきで観覧できたことは、非常に有意義な経験でした。特に江別市セラミックアートセンターが印象に残っています。明治期から始まり地場産業として定着したれんが生産をはじめとする窯業は、江別を代表する産業です。セラミックアートセンターは、このれんが産業をまちづくりに生かすべく平成2年から始まった『陶芸の里計画』の中核施設です。常設展示の一部として、北海道のれんが産業の歴史をジオラマや模型、多数の写真などによってわかりやすく解説した「れんが資料展示室」があり、函館のれんが建築物の写真もいくつか紹介されていました。また窯と工房をもっており、焼き物教室などの教育普及活動にも力を入れているようでした。

### ■おわりに

初めてづくしの大会でしたが、いろいろな方達と出会えたことが何よりの勉強でした。大会にいらした皆さん、ありがとうございました。

（函館市北方民族資料館 学芸員 渡辺文子）

## 『ヨーロッパの美と技の結集 陶板画展』

鮮やかに豊かな色彩で描かれたもうひとつの絵画

1999年3月20日～2000年3月15日

ユニマットグループが平成6年7月に、北海道・大沼に『大沼ヴェネチアガラス美術館』をオープンしてから、皆様のご支援のもとに、5周年を迎えようとしております。

大沼ヴェネチアガラス美術館では、常設展示のヴェネチアガラスに加えてヨーロッパという環境が生んだもうひとつの絵画である陶板画を特別展示いたします。

大沼ヴェネチアガラス美術館は、北海道のリゾート発祥地であり、四季の美しさで定評のある駒ヶ岳を背景に、新日本三景のひとつに讃えられる大沼湖に隣接するという絶好のロケーションに位置します。



これはユニマットグル

レース文ゴブレット

## 市立小樽文学館

かつて北の商都として活況を呈した港町小樽。今や道内有数の観光の町に変わりつつありますが、そんな小樽の運河にほど近い所に市立小樽文学館があります。

市民有志の設立運動が実を結び、1978年（昭和53年）11月3日、全国初の市立文学館として開館しました。地元ゆかりの文学資料を収集、保存しようという開館以来の趣旨を守り、現在約6万点の資料を収蔵しています。

常設展示室は、ジャンル別と作家別のコーナーを設け、約千点の資料を展示しています。北海道漂白の途上足を留めた石川啄木、プロレタリア文学の小林多喜二、文壇を代表する知性といわれた伊藤整、歌人の小田観螢、口語短歌の並木凡平、詩人の吉田一穂や小熊秀雄、新興川柳の田中五呂八といった小樽ゆかりの作家たちの生涯と作品を展示紹介しています。とりわけ多喜二の資料については、1929年（昭和4年）に多喜二が「不在地主」執筆時、当時の中央公論編集者に宛てた手紙を、2年前に市民からの寄付を募って購入。マスクミでも紹介されたことから、現在でも多くの方

ープの、「人にゆとりとやすらぎの時空間を提供する」という企業テーマにもとづき、自然の美しさに触れながらアートに親しめるミュージアムをめざして開設されました。

ユニマットグループは、『大沼ヴェネチアガラス美術館』をはじめとして『伊豆一碧湖美術館ーカシニョール常設館ー』（平成6年11月開設 静岡県伊東市）・『ガラスの歴史美術館』（平成8年3月開設 東京港区）・『ガラスの丘美術館』

（平成8年4月 長崎県佐世保市）・『伊豆一碧湖香りの美術館』（平成9年4月開設 静岡県伊東市）の5つの文化施設を開設し、さらに平成12年には、『古代地中海美術館』を再開設の予定です。



「バルコニー乙女」

(大沼ヴェネチアガラス美術館 支配人 小山靖昭)

が訪れ、この手紙を含め多喜二関係の新収蔵資料を興味深く見入っています。

これらの常設展示のほか、年2回程度テーマを設けて開催する特別展や文学講演会、文学散歩の実施、また年2回館報の発行による情報提供も行なっています。最近では特別展などに関連して、展示室を会場にコンサートや朗読会なども企画し、文学に親しめる機会の提供にも努めています。

これらの様々な事業を通して、今後も小樽の風土に育まれた文学世界の魅力を伝えていきたいと考えております。

(市立小樽文学館 副館長 小原正徳)



市立小樽文学館 常設展示室

## 日高山脈を覗いてみませんか？ ～日高山脈館～

今年6月26日(土)、日高町「道の駅」隣に日高山脈館がオープンいたしました。

日高山脈はそのダイナミックな山並みや豊かな自然で、登山愛好家や動植物の愛好家をはじめ多くの人を惹きつけてやみません。

なかでも、日高町は地質がおもしろいところです。町内でさまざまな種類の地質帯が観察でき、全国各地から研究者が訪れます。日高変成帯(=日高山脈)は新しい時代の地殻断面として世界的にも有名です。神居古潭変成帯は鉱床との絡みでも研究が進められてきました。蝦夷累層群という白亜紀の堆積層は化石を多産することで有名で、当時の周辺環境を推察する上で重要視されています。

当館では日高山脈と日高町の姿を知っていただけるよう、1Fで登山、2Fは地質、3Fは動物などを用いて行っています。

また、付近に調査に来られる研究者の方々の支援センター的役割を果たせるよう体制作りを進めています。関連工作機械や文献類の利用、ほかの、

研究者の方々との情報交換などでご好評いただいています。研究結果は還元していただき、展示や出版物で広く一般の方々にお知らせする予定です。現在は2F「地質みどころマップ」に調査を行っている人たちの名前と調査範囲を書き込んでもらっています。どんなところでどんな人が調査をしているのか、どんな研究なのかをみなさんに身近に感じていただけたらと思います。

お近くにお越しの際はどうぞお立ち寄りください。HPへのご意見、ご感想もお待ちしております。

開館時間(4月～10月)

10:00～17:00(入館は16:30まで)

開館時間(11月～3月)

10:00～15:00(予定)

休館日:月曜日、12/29～1/5

入館料:大人200円、小中高生100円

(10名以上団体割引料金:半額)

URT: <http://www.town.hidaka.hokkaido.jp/hmc/>

E-Mail: [hmc@town.hidaka.hokkaido.jp](mailto:hmc@town.hidaka.hokkaido.jp)

TEL・FAX: 01456-6-9033

(日高山脈館 職員 小野昌子)

## 道北地区博物館等連絡協議会 第12回巡回展「道北鉄道メモリアル」

鉄道は石炭や木材、その他物資の輸送の花形として、また人々の足として全盛期を迎えました。そのころにはこの道北3管内にも本線・支線を含め11路線もの鉄道網が張り巡らされ、道路の整備が進まずその他の陸上交通の便の悪かった当時唯一の交通機関として、道北の産業や生活を支えてきました。その後、相次ぐ炭鉱の閉山による輸送量の減少や、道路の整備が進んだため物資輸送の花形の地位をトラックなどに奪われ、また人々の足も家用車の普及などにより鉄道の利用率が減少、昭和60年の国鉄再建処理法に基づく赤字路線の廃止決定以後、この管内でも徐々に廃止路線が増え、現在では道北3管内に5路線を残すのみとなりました。今回の巡回展ではこれら11路線の歴史を振り返ることにより、鉄道全盛期と現在の違いを比べてみよう企画しました。

展示資料は、各路線別に概略を説明したパネルと共に、道北各博物館、郷土館、市町村教育委員会などが所蔵する写真パネル44点を展示し、全盛

期と現在の路線配置図のほか、駅長と職員の制服も展示しています。

これら展示されている写真の中には、現在残っている路線にSLが走る明治、大正時代の写真や廃止されてしまった路線の開通式典や廃線式典の様子などが写し出されており、歴史を感じさせます。また開通から廃止までの期間が短かった「美幸線」や興浜南線との連絡を夢見ながらもついに全線開通することのなかった「興浜北線」の貴重な写真も展示しています。

この巡回展は平成11年6月に留萌市をスタートし現在も巡回中で、平成12年3月の富良野市まで全12ヶ所を巡回する予定です。

(留萌市海のふるさと館 学芸員 高橋勝也)



留萌市海のふるさと館 特別展示室

## 網走管内博物館連絡協議会 平成11年度前期研修会報告(紋別)

網走管内博物館連絡協議会は、管内26施設の加盟のもと、前期研修は各地区ブロック館持ち回りで地域に密着した実技研修、後期研修は北網圏北見文化センターで、博物館の今日的な問題を掘り下げた内容の総括研修と、毎年2回の研修会を開いております。

今年度前期研修会は西紋ブロックが担当で、私たちの生活に密接に関わっている「オホーツク海と流氷」をテーマに、7月6日～7日の2日間にわたり北海道立オホーツク流氷科学センター(紋別市)などを会場に、管内博物館関係者25名の参加で開催されました。

1日目最初は「流氷を考える会～オホーツク海からの発想」と題して、北海道大学低温科学研究所附属流氷研究施設長の青田昌秋教授に講演をしていただきました。内容は、流氷はやっかいで嫌われ物という考え方から、いまでは大切な自然現象のひとつで流氷の存在そのものが恵みである、という考え方になってきており、ただ単に観光や水産に役立つというだけでなく、もっと流氷を理

解し、オホーツク海からの発想を生活に取り入れるべきだということ、流氷の科学的メカニズムや流氷の発生とオホーツク海との関連、流氷と地球規模での環境問題との関係などを織り混ぜながら話していただきました。

その後の実技研修では、-20℃の厳寒体験室で、海中ダイヤモンドダストの発生実験や、厳寒時におけるシャボン玉の物理現象などの実験を行い、冬の野外での雪や氷の実験の種類やノウハウなどを研修しました。

夜は野外で情報交換・交流会を行い、その後氷海海中展望塔・オホーツクタワーで、オホーツク海の夜の生物の生態を、ライトをつけて海中観測室から観察し、海中で営まれる生物の生態を学習しました。

2日目は北海道立オホーツク流氷科学センターとサンクルーザーを見学後、北海道大学低温科学研究所附属流氷研究施設を見学し、レーダーによる流氷の解析や研究状況、流氷情報のシステムなどの説明を受け、各博物館への流氷情報提供と活用の方法など活発な交流が行われ、2日間の充実した研修を終えました。

(網走管内博物館連絡協議会 広報担当幹事

紋別市立郷土博物館 業務係長 佐藤和利)

## 博物館まつり

釧路市立博物館友の会では、創立20周年に当たる平成2年より毎年、会員の手作りによる「博物館まつり」を開催しています。この祭りの目的は、会員相互さらに博物館関係団体や一般市民との交流と親睦を深めて会活動の充実とPRを図ることです。

今年もさる9月26日(日)、9:30～13:00、博物館講堂・前庭を会場に開催し、約400名の来場者がありました。祭りのメニューを紹介すると、友の会会長が売り子を担当するミニショップ(格

安バザー)をはじめ、駄菓子くじ、古本市、木工細工(船、案山子、竹とんぼ)、凧づくり、土器復元、押し花カード作り、木の葉しおり・メール作り、展示室でプリクラ撮影、せんべい焼き、紙芝居実演など、なかなか多彩なものです。入場は無料ですが、各コーナーの参加費は50円、100円と材料費程度とし、多少の黒字となりました。

多くの親子連れで賑わい、もう来年のお祭りが楽しみという声も聞かれ、博物館友の会と市民との交流という目的は十分に達成できました。

(釧路市立博物館 館長補佐 橋本正雄)



木工細工



せんべい焼き

## 館 園 紹 介

新館オープン  
小川原脩記念美術館

「ここでは『白い』季節と『白くない』季節の交替が、劇的で激しい変貌を示しながら進行していきます……。」小川原脩が言うこの土地に平成11年11月3日、町の新しい風景が誕生する。



小川原脩記念美術館全景

平成4年、小川原脩さんの絵をこよなく愛する人たちが小さな会を結成した。「小川原脩さんの絵を考える会」である。小さな集まりがやがて成長し、小川原脩美術館建設にむけて町民レベルでの活動を展開するにはそれほど時間を要しなかった。活動は行政を動かし、小川原脩さんからの作品の寄贈も相まって美術館建設の機は熟し、平成8年から具体的な作業に取りかかった。大地に蒔かれた小さな種が8年の年月を経て実を結んだ。

小川原脩さんは、明治44年(1911)に倶知安町で生れた。旧制倶知安中学校卒業後、東京美術学校(現東京芸術大学)西洋画科に入学、在学中に帝展、東光会展、道展などに入選。卒業後は福沢一郎氏らと「美術文化協会」の創立に参加、さらに「新浪漫派協会」の創立に参加するなど、新たな創作へ挑んでいった。戦後、故郷倶知安町に戻る。木田金次郎氏らと「後志美術協会」を結成、北海道での創作活動を始める。同じ年に、岩船修三氏の誘いを得て「全道美術協会(全道展)」の創立に参加する。1970年代から動物を多く描くようになる。動物とくに犬のさまざまな姿態を人間社会と交錯させながら描く世界はペーソスがある。60歳代後半から70歳代前半にかけて数度にわたり訪れた、中国(桂林)、チベット、インドは小川原脩さんにとって新たな世界の扉を開くことになった。

羊蹄山に面した小高い丘の上に立地する美術館、あまりにも大きな存在の羊蹄山とは真正面から対峙するような自己主張の強い建物ではなく、風景としての建物を意識した。それは、小川原脩さんが言う「素朴な美術館ができればいい、絵は描きたい人が描くよりしょうがない、そんな気持ちを子どもたちにかき立てるような、敷居の高くない場所になって欲しい」ことにつきる。

平屋建ての建物は東西に長軸をとり、南面に羊蹄山を眺望する。展示空間は2室あり、第1展示室は小川原脩作品の常設展示の空間。テーマは『小川原脩の世界・自然回帰への旅』、倶知安、中国-桂林、チベット、インド、アジアの大地を情感豊かに描いた小川原脩の世界を体感し、作品と対話をする空間。第2展示室は企画展向けの空間。当面、小川原脩さんの画歴を辿る展示を開催する。以降、小川原脩作品のテーマ展示、地域にゆかりある作家の作品展示を開催する予定。



第1展示室 一常設展・小川原脩の世界一

ギャラリー映像(映像展示室)は円形状の空間、ここではハイビジョン番組「小川原脩・アジアの大地」を常時上映している。

ロビーから事務空間まで一体となった空間の一角に検索システムが設置され、1930年代から1990年代までの小川原脩さんの作品が検索できるほか、地域ゆかりの美術作家、近隣美術館などを調べることができる。

所在地：北海道倶知安町北6条東7丁目

TEL0136-21-4141/FAX0136-21-4142

観覧料：一般500円、高校生300円、小中生100円(団体10名以上それぞれ400円、200円、50円)

休館日：毎週火曜日(祝日は翌日)、年末年始(12/31~1/5)

開館時間：9:00~17:00

(小川原脩記念美術館 館長 矢吹俊男)

## 館・園の主な展覧会と普及事業

(1999年11月～2000年3月)

### 石狩

- 札幌市博物館計画 (011-200-5002)  
11月、12月、1月、3月 講習会「植物標本の作製」など  
2月 ロビー展「博物館活動紹介」
- 江別市セラミックアートセンター (011-385-1004)  
12.25～26 「親子陶芸体験」  
～11.21 展覧会「土のかたちー北の彩ー」  
2.5～3.19 展覧会「収藏品展」
- 札幌芸術の森 (011-591-0090)  
12.4～5、12.11～12 「シルクスクリーンで年賀状」  
2.17～18、2.24～25 「銅版画(メゾチント)」
- 札幌市青少年科学館 (011-892-5001)  
12.18、1.22、2.26、3.11 プラネタリウム夜間特別投影「クリスマス」など  
1.9～16 「冬休み工作会(小・中)」  
1.5～19 特別展「工作大集合“2000”」(仮称)  
3.25～ 特別展「からくりワンダーランド」(仮称)
- 札幌市豊平川さけ科学館 (011-582-7555)  
11月 「琴似発寒川サーモン・ウォッチング」  
12月、1月 季節展示「サケの赤ちゃんの誕生」
- サッポロビール博物館 (011-731-4368)  
12月 「X'mas ウィーク」
- 札幌市円山動物園 (011-621-1426)  
10月中旬～11月中旬 「富山市との動物画交換展示」  
1.1 「あま酒・おしるこサービス」  
1月中旬 「親子もちつき大会」
- 北海道開拓記念館 (011-898-0456)  
1.7～2.6 テーマ展「アイヌ衣服展」  
2.19～3.26 テーマ展「蝦夷の植物画」  
1.4～30 体験学習「化石にチャレンジ」  
2.6 観察会「動物の足跡をみる」
- 北海道開拓の村 (011-898-2692)  
12.19 「もちつき」  
2.1～29 企画展「電話誕生100年」(仮称)
- 北海道立近代美術館 (011-644-6881)  
12.3～16 特別展「版・創造の大地」  
12.22～1.30 「イツ・アニマル・ワールド」  
2.5～3.5 特別展「松島正幸展」
- 北海道立三好好太郎美術館 (011-644-8901)  
11.28～3.29 所藏品展「オーケストラをめぐる」
- 北海道立文書館 (011-231-4111)  
11月 講座「文書でみる北海道史講座」
- 千歳サケのふるさと館 (0123-42-3001)  
1.21～3.12 企画展「支笏湖の魚たち 水中写真展」(仮称)

### 渡島

- 楳法華村灯台ファミリー博物館 (0138-86-2115)  
11.1 「第五回灯台まつり」
- 北海道立函館美術館 (0138-56-6311)  
10.29～12.5 展覧会「現在に生きる古典の書の展開」
- 函館市北方民族資料館 (0138-22-4128)  
11.27 ミュージアム・トーク「蝦夷錦について」  
12.25 冬休み自由研究「北方民族紋様凧づくり教室」 1.13 同「ムックリをつくろう」
- 大沼ヴェネチアガラス美術館 (0138-67-3727)  
～3.15 特別企画展「ヨーロッパの美と技の結集 陶板画展」

### 松山

- 上ノ国町郷土館 (01395-5-3131)  
11.1～3 「町民文化祭」
- 熊石町歴史記念館 (01398-2-2200)  
1月上旬 「新春書初め席書大会作品展」

### 後志

- 小樽市博物館 (0134-33-2439)  
12.18 民俗講座「しめ縄づくり」  
12.25 民俗講座「もちつき」
- 黒松内町ブナセンター (0136-72-4411)  
3.11～26 公募展示「ブナセンター工房展」  
2.26～27 「かんじきブナウォッチング」  
3.12、19、26 「クマゲラ生息調査」

### 空知

- 砂川市郷土資料室 (0125-52-2339)  
11.15～21 特別展「北のまちづくりパネル展」  
12.1～2.28 特別展「はきもの(靴)展」
- 滝川美術自然史館 (0125-23-0502)  
1.15、2.13、3.4 「人物デッサン会」  
1.6～30 特別展「わが街ふるさと展」  
2.5～27 特別展「世界児童画展」  
3.16～31 特別展「収藏品展」
- 美唄市郷土史料館 (01266-2-1110)  
1.8～30 「くるみ絵画」  
2.4～27 「油絵展」  
3.3～19 「押し花展」

### 上川

- 旭川市博物館 (0166-69-2004)  
11.7 自然観察「秋の嵐山」 3.5 同「冬の嵐山」  
1.15 体験学習「化石のレプリカを作ろう！」  
1.30 子供博物館「使ってみよう昔の道具 石うす」  
1.9 特別企画「カルタで遊ぼう！」  
3.1～ 企画展「旭川周辺の岩石・鉱石展」
- 旭川市常盤公園 (0166-22-4171)  
～12.5 全国科学館連携協議会巡回展「電気と光のおもしろ実験工房」

1. 8～9 2000科学ワールド「科学探検広場」  
 ●**剣淵町資料館** (016534-2235)  
 11. 3と前後2日間「剣淵町文化祭の資料館開館」  
 ●**下川町ふるさと交流館** (01655-4-2637)  
 11月 「第13回収蔵品展」  
 ●**中川町郷土資料館** (01656-7-2419)  
 11月 室内普及教室「顕微鏡観察教室」  
 2月 室内普及教室「化石レプリカ教室」  
 ●**中原悌二郎記念旭川彫刻美術館** (0166-52-0033)  
 2月26日～ 展覧会「旭川の彫刻家」(仮称)  
 ●**富良野市郷土館** (0167-22-3864)  
 11.17 富良野の自然に親しむ集い「獅子座流星群をみよう！」 3.12 同「冬の自然観察」

**網走**

- 端野町歴史民俗資料館** (0157-56-2560)  
 2～3月 講演会「端野再発見講座」(全5回)  
 ●**美幌博物館** (01527-2-2160)  
 10. 3～11. 7 特別展「北海道の気象と農業」  
 11.16～12.19 企画展「交通安全ポスター展」  
 12.23～1.23 企画展「寄贈美術資料展」  
 2. 6～3. 5 企画展「冬季作品展」  
 ●**道立オホーツク流氷科学センター** (01582-3-5400)  
 11月 「オホーツク流氷科学講座」  
 1.14 「冬休み子供科学実験教室」  
 ●**北海道立北方民族博物館** (0152-45-3888)  
 1.23 講座「映像に見る北方先住民の狩猟と精神文化」  
 2. 1～3.20 企画展「北の海と川のめぐみ」  
 2.12 講習会「鹿笛の歴史とはたらき」  
 2.19 講座「北に住む人びとと食べもの」

**胆振**

- 苫小牧市科学センター** (0144-33-9158)  
 12.28～29 「冬休み親子工作教室」  
 1.12～13 「冬休み親子科学教室」  
 ●**苫小牧市博物館** (0144-35-2550)  
 1.16～2. 6 企画展「所蔵絵画展」  
 2.27～3.26 企画展「余暇の楽しみ～苫小牧のレジャーの盛衰展」  
 ●**室蘭市青少年科学館** (0143-22-1058)  
 1月上旬 「冬休みパソコン教室」  
 1.15 「楽しい親子工作教室」  
 3月下旬 「菊作り講習会」  
 ●**室蘭市民俗資料館** (0143-59-4922)  
 11月上旬 「手打ちそば作り」  
 1月中旬 講座「凧作り・凧あげ」  
 3月上旬 講座「水引結びと祝い包み作り」

**日高**

- えりも町郷土資料館・水産の館** (01466-2-2410)  
 11.17、12.14 「流星観察会」  
 2月 「郷土資料館講演会」

- 新冠町郷土資料館** (01464-7-2694)  
 11. 1～7 特別展「昔の遊び文化展」  
 12.18 「冬の星座観察」  
 11.13、11.27 「陶芸にチャレンジ」  
 1.11～14 「冬休み子ども歴史講座」  
 2.19 「そばうちにチャレンジ」  
 ●**門別町図書館・郷土資料館** (01456-2-3746)  
 12月 「そばづくり教室」

**十勝**

- 帯広百年記念館** (0155-24-5352)  
 11.20、12.18、1.15、2.19、3.18 博物館講座  
 「レコードと音の文化史VI」など  
 2.13 自然観察会「冬の生きものウォッチング」  
 2.15～3. 3 ロビー展「ひな人形展」

**釧路**

- 釧路市立博物館** (0154-41-5809)  
 11～12月、2～3月 特別展「私の博物館」  
 ●**北海道立釧路芸術館** (0154-23-2381)  
 11.20～1.30 特別展「南仏プロヴァンスの女神たち—グラネ美術館展」  
 2. 5～3.29 「釧路芸術館所蔵品展」

**根室**

- 標津町ポー川史跡自然公園** (01538-2-3674)  
 2.13 「冬の観察会」  
 3.27 「巣箱作り教室」  
 ●**根室市博物館開設準備室** (01532-5-3661)  
 11. 3 「歴史散歩」  
 11月、12月 「根室歴史講座」

**事務局日誌** (平成11年6月15日～10月25日)

- 6月15日 第38回北海道博物館大会への事務局員派遣依頼(開拓記念館長宛)  
 25日 『第38回北海道博物館大会資料』発行  
 29日 平成11年度北海道博物館協会学芸職員研修会開催に関し留萌市教育委員会へ依頼  
 29日 北海道新聞社へ「北海道 新博物館ガイド」の出版契約書送付(契約日7月1日)  
 7月1～2日 第38回北海道博物館大会(江別市)  
 7月7日 第38回北海道博物館大会後援事業終了報告書(江別市)提出  
 9月3日 平成11年度アイヌ民族文化財専門職員等研修会後援  
 10月5日 平成11年度石狩他連絡協議会へ交付金送付  
 10月8日 第39回北海道博物館大会補助金交付申請(道教委)  
 10月21日 平成11年度第2回役員会(七飯町)